

紹介事例① (デジタル技術を活用して業務の効率化を推進している事例)

AIが売れ行きを予測、自販機の補充を効率化

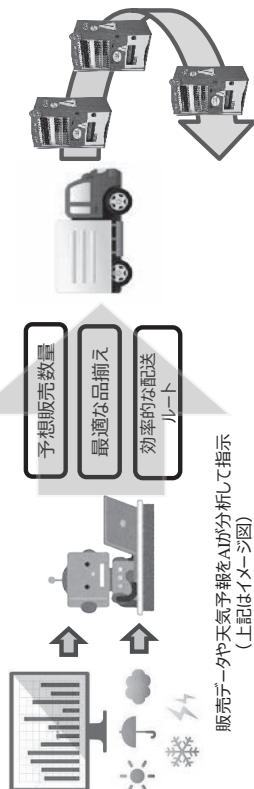
北陸コカ・コーラボトリング(株)

(本 社) 富山県高岡市 (資本金) 7億3,283万円
(従業員数) 387名 (業 種) 飲食卸売業



(企業概要)
コカ・コーラ製清涼飲料水の販売。北陸3県と長野県が販売地域。

人手不足に対応しながら生産性を高めることを目的に、自動販売機の補充をAIで効率化するシステムを開発、今年5月に導入。
収益を最大にする商品配置や補充時期をAIが提案。管理する通信機能付き自販機のほぼ全てを対象。



(写真提供：北陸コカ・コーラボトリング)

システムの特徴

- 設置場所ごとに個別の飲料の需要を高い精度で予測。
- 過去の販売データと天気予報から、予想販売数量を算出。
- 予測に基づいて最適な配置を指示。
- 品切れや売れ残りをなるべく減らす訪問の順番も提案。
- 道路状況から最も効率的な配送ルート割り出す。

従業員の経験に頼っていた作業を高レベルで平準化。
人手不足に対応。働き方改革・生産性の向上に寄与。

(株)北國銀行

(本 社) 石川県金沢市
(資本金) 266億7350万円
(従業員数) 1,759名
(業 種) 銀行業



(企業概要)
金沢市に本店を有する地方銀行。貸出金残高2兆6,179億円、預金残高3兆7,126億円。石川県を中心に105店舗を展開。(2020.3期)

これまでシステムの内製化・デジタル化に向けた前向きな取組を展開

- グループウェア導入による情報共有化 (2011年)
- タブレットによる金融商品の販売開始 (2012年)
- 全行員にタブレット端末・スマートフォン配布、営業に活用 (2016年)
- 県、保証協会と協働し特別保証制度の認定事務を電子化 (2020年)



(写真提供：北國銀行)

業務改善・生産性向上へ、更なるDXの事業・ソリューションを展開

勘定系システムのクラウド化

- 銀行の勘定系基幹システムにインターネットで公開されたクラウドサービスを採用。地銀では国内初。2021年5月稼働予定。
- 自前のサーバー運用が不要、システム構築や保守管理コストを削減。
- 新ビジネス開始や事業拡大時に必要なリソースを柔軟に準備可能。
- クラウドに蓄積されたデータを人工知能 (AI) で分析。新サービスの創出が可能。

独自のスマホ連動型ATMを開発

- インターネットバンキング等オンラインサービスが普及する中、更なる顧客利便性の向上のため、独自のATMを開発。地銀で初。2022年完成予定。
- 今後、スマートフォンと連動し、カードを使わずに現金できる機能や窓口を訪れずに住所変更ができる機能を拡張予定。

顧客の利便性向上、経費削減による経営効率化を推進。

紹介事例③ (従来の技術を生かして新たなビジネスを開拓した事例)

世界初”インフルエンザ・コロナ同時検出” 高速PCR検査装置を開業医向けに低価格で開発

澁谷工業(株)

(企業概要)

ハクレーシニングプラント事業 (ポトリングシステム)、メカトロシステム事業 (半導体製造装置、医療機器) 等の製造。ポトリングのうち主力の無菌充填システム国内シェアは90%以上。世界のトップを走る技術の”ダン”製品づくりがモットー。

(本社) 石川県金沢市
(資本金) 113億92万円
(従業員数) 約3,500名
(業種) 生活関連産業用機械



検査キット (写真提供: 澁谷工業)

唾液から新型コロナウイルス、インフルエンザA、Bの3つのウイルスを短時間(約20分)で同時に検出できるPCR検査装置と検査キットの開発に着手。

現在、販売に向けて、最終の準備段階に入っている。

開発に至った経緯

- インフルエンザの検査で「鼻からウイルス採取がづらい」との小児医の声。
- 鹿児島県のベンチャー企業ステイクスバイオテック(以下、バイオテック社)が唾液から検体採取をする検査手法を開発。
- バイオテック社から依頼を受けた澁谷工業が唾液採取によるインフルエンザ検査キットを受託製造。
- 新型コロナウイルスが流行。PCR検査の精度、検査時間に課題。
- バイオテック社が唾液によるコロナ用検査キットを開発し、澁谷工業が受託製造。
- バイオテック社がインフルエンザとコロナウイルスの同時検査が可能な唾液による検査キットを開発。
- 澁谷工業は、これまでの検査キットの製造ラインを利用して同検査キットを製造開始。
- 澁谷工業は、バイオテック社と共同で、同時検査可能な低価格PCR検査装置の開発に着手。年内にも開発終了。実用化へ。

これまで培った知恵と技術を生かした取組

- ダントツ製品づくりの発想

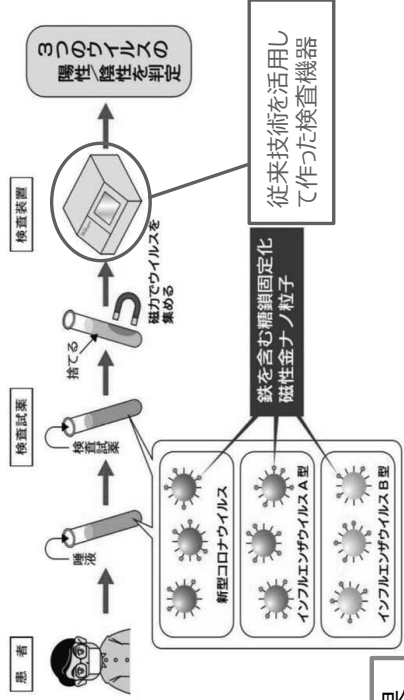
新型コロナウイルスA、Bの3つのウイルスを同時に検体採取できるものを作れないか？

- 当社が培ってきた事業のノウハウを活用

- ① 医療機器や半導体製造装置などの製造技術を活用。
- ② 低価格で製品を提供するコストダウンのノウハウを駆使。

唾液検査の流れ(イメージ)

(図提供: 澁谷工業)



成果

- 3つのウイルスを短時間で同時に検出できるPCR検査装置と検査キットの開発。(世界初)
- 1台当たり200万円を切る価格設定の具体化。開発着手を発表後、200超の病院から導入の打診